



南方旅行より歸つて

社長 古野伊之助

この總支社長會議は十一月初め若くは十月末に開くつもりで私自身もせいぜい三週間、長くても一ヶ月の予定で南方に飛出したが現地へ行つてみると、いろいろ用事が起つてくるし、是非とも片付けがおかねばならない問題も出てくるし、また飛行機の都合で日が延びたり、たうとう二ヶ月も南方に費してしまつたわけでありました。

南の方を一巡してしみじみと考へたことは、この大東亞戦争は矢張り前古未曾有の世界大戦であるといふこととあります。日本で眺めてみても理窟は同じこととありますが、矢張り現地を廻つてジャワ、セレベスなどの土を踏んで北の方に思ひをやると、なるほどこの戦争は實に大きな戦争だといふことが知れる。しかしこの戦争に勝ち抜けばアジア十一億の民衆はまさに世界の定安勢力として人類永遠の平和を確保し得るといふことを痛感します。そしてこれに敗れば十一億の諸民族は永久に米英の奴隷と化するといふ感じがしみじみ胸を打つのである。

南方の大資源

幸にして先づ過去一ヶ年の戦によつて確保し得た諸地域は、わが日本全版圖の六倍半にわたる地域であります。これによつて現地で

「お早うござい

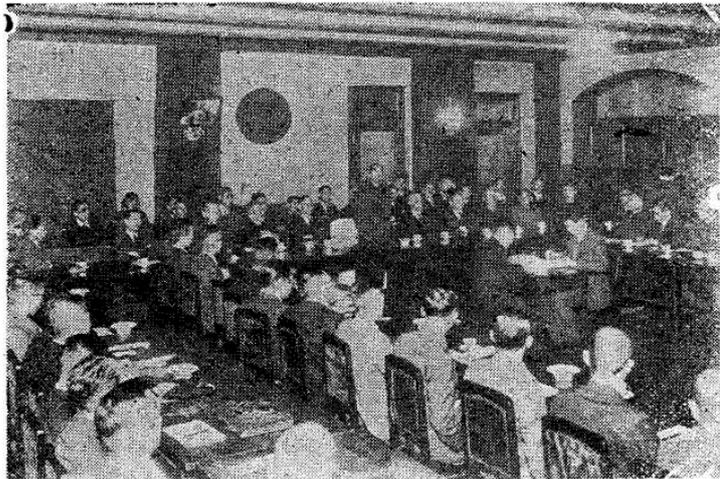
現地に光明

しかし今まで傲慢な態度で東インド各地の民族を壓制してゐたオランダ人、或はイギリス人、豪洲人、アメリカ人などは、到るところで苦力の姿になつてトロツコを押したり、埠頭人足代りに働いたり、或は飛行場の地均らしや、道路修理に汗を流してゐる。

北の方から南の方へ行く程、明朗そのものです。支那事變で経験したこと、南方の現地における現在の状態とはその間に大きな差異を感じるのであります。東インドのごときは

あつたところ日

東インドのある地方では原住民がちやうど日本の農村にでも行つたやうに「今晚は」とか「お早うござい



號三十六第
月二十年七十和昭
行發日十
行發日十
錢五部一價定
錢十六(共稅)分年一
一才 田杉 編集行發
國公谷比日區可廳市京東
社信通盟同 所行發

案晴しい戦果

南方では大きな軍港、港灣施設製油所などが日本の手に轉りこんでゐます。現状のままにおいてはわが日本は世界最大最強の海洋國家だといふことを思はせません。昭南の軍港施設など實に素晴らしいマニラまた然りであります。パレンバン

冒頭に申上げたやうに世界の安定勢力として、人類永遠の平和を

がこれから新しい統治をやつてくれるといふことで、希望と光明に輝いてゐるやうであります。

尊い経験の一つ

かうした大きな舞臺を背景にわれわれ同盟の同志はなかなかよく現地で戦つてゐます。年中真夏の暑さで南ボケするといはれる暑さを冒し、よく頑張つてゐます。

現地では軍首脳部の方々をけじめ多數の要路の人々に會ひました

確保し得るか、永久に米英の奴隷と化するか、この二つの道の一途を選ばねばならない。勝ち抜いために一億國民火の玉となつて戦はねばならない。

古野社長歸任

古野社長は要務を帯びて約二ヶ月南方各地視察旅行中であつたが無事歸社された。社長は去る十月五日羽田飛行場より本社機で出發されたが途中廣東、香港、佛印を経てタイ國、昭南、スマトラ、ジャワ、セレベス、マニラ、南京と各地を主として飛行機により歴訪されたが、十一月三十日頃の元氣で歸社された。(寫眞は總支社長會議における古野社長挨拶)

現地では軍首脳部の方々をけじめ多數の要路の人々に會ひました

の言葉を受けました。現地にまゐりますと誰しも一番知りたいことは祖國の情勢です。次が世界各國の事情です。その第一報をもたらす同盟の電信同報は各地で絶大の威力を發揮してゐます。手不足の中を現地人のオペレーターを雇ひこんで同盟の無線同報をとつて現地に配つてくれてゐますが、これが現地に働く人々に感謝される大きな理由となつてゐます。のみならず同盟の同人はいろいろ隠れた大きな仕事をやつてくれてゐたりします。これは私も洵に力強く感じたこととあります。

開戦前後の思ひ出

通信局長 加藤 萬壽男

開戦

一周年に當つて感懐を書けといふ註文である最後の日米交渉から、開戦の歴史のモメント、それから半年にわたる抑留生活を敵地に味ひ、六十日におよぶ大迂回路の航海を了へて故國にたどり着いたといふことは新聞記者として得がたい経験であつた。もつと苦勞を積んで来たかつたと思ふことだが、抑留生活をもう一度やり直してみたいなどといふ贅澤な考へは今毛頭持ち合せてゐない。

振り返つてみると日米交渉以來心勞の多い日の連続であつたが、自分にとっては開戦後よりも、日米交渉當時の方が遙かに氣苦勞が多かつた。戦争になつてからは海に陸に、皇軍の赫々たる戦果によつて、戦局に關する限り、極めて落着いた心境にゐる事が出来た。インドなどの抑留生活と違つて一個の生命の危険などは考へる必要がなかつた。晩かれ早かれ歸朝出来やう、萬一交換が實現せず、戦争中抑留を餘儀なくされるとして、限られた書物と新聞を相手にアメリカを研究することだと觀念してゐた。

同僚の諸君と同じやうに、自分は三週間を移民收容所に監禁生活を送つたのみで、その後は外交官連と一緒に、ホテルの軟禁生活をして来たものだが、ホテルの生活など有難いと思はなかつた。一般民間の人々と同様、皿洗ひ、便所掃除なども日課とするキャンプ生活をすることが、その當時の氣持にそぐはしい生活だと思つてゐた三週間の監禁生活をもつて律しては、おこがましい次第であるが、物質上、肉體上の生活の苦勞——しかもそれは衣食住の保障されてゐる生活だつた——のごときは戦争の渦中であつて當然分つべきものを分つてゐるといふ氣持の満足があつて却つて良いと思はれたのである。とまれ半歳餘の

抑留

生活では新聞をむさぼるやうに讀んだ。こんなに新聞を熟讀、熱讀したことは生涯の想出である。人間はどこにあつても、またどのやうな境遇にあつてもなすべき仕事があるものだと思つたことだ。

大きな歴史の足跡を印して經過した戦争の一年を顧みて切に思ふことは、生命を全うして故國に歸り着いた吾等は後れ馳せながら、なに新聞を熟讀、熱讀したことは生涯の想出である。人間はどこにあつても、またどのやうな境遇にあつてもなすべき仕事があるものだと思つたことだ。

一年前に過つて想ひ出すことはいふまでもなく、開戦前後の間には一寸名状し難い區切りがあつたことである。危機一髪とか、一觸即發とかいふ言葉で形容されるのが開戦直前日米兩國の緊張状態であつたが、戦争といふものは起つてみないとほんだうの感じが出不いものである。太平洋戦争「間近」と豫てから高言してゐた米海軍長官ノックスのごときは、當日最もうろたへた一人だつたといふことである。その日のワシントン政府部内の狼狽、混亂は甚しかつた。眞珠灣まで一舉に攻撃の對象にならうとは米政府當局者の全く豫見し得なかつたところだ。没常識の話をやうだが、眞珠灣攻撃の第一報を聴いて、パール・ハーバーは

總支社局長會議開催

大東亞戦争勃發後初の同盟通信社全國總支社長會議は十一月二十五日より六日間にわたり電通ビル八階會議室において開催、南方旅行中の古野社長の歸京が遅れたため最初四日間は島山常務理事代つて主宰し決戦下の思想戦必勝の信念に燃え立つ全國代表者間に眞摯活潑なる討議が展開された。最後に待望の古野社長の歸京を迎へて社長より南方視察にもとづく大戦の見透しと同盟の重大なる使命ならびにこれが完遂に邁進すべき我等の方途に關し雄大な構想と鐵石の信念を示され、感激の裡に意義深き大會は閉幕を告げた。

一、出席者
(地方側) 福岡大阪、潮海名古

屋、塚本關門、田村福岡、瀧谷札幌、淺野京城、益崎臺北各支社長、荒尾豊原、瀬川函館、川口旭川、萩原小樽、佐藤室蘭、蒲田青森、古川仙臺、藤澤秋田、岩崎盛岡、松澤山形、古川桐生、兼足利、今井川崎、小野横濱、小座間新潟、中住長野、小栗甲府、一ノ瀬静岡、樋口富山、酒井金澤(事務取扱) 白川福井、角道津、諸富京都、高橋神戸、松宮岡山、周藤廣島、酒井徳島、山下高松、岡本松山、森田高知、大西大分、染川佐賀、田端長崎、河邑熊本、吉井鹿兒島(事務取扱) 青戸那覇、大瀧臺南、高木花蓮港、中川高雄、小野臺中、磯部釜山、青山清津、荒井平壤

各支局長、久保田大阪支社編輯近藤同通信各部長 佐々木北支、岩本中支、横田南支各總局長 建部國通理事、小林國通通信局長、堀井同整理部長 (本社側) 古野社長、島山、上田、堀各常務理事 塚本總務、鷹鳴通信、結束企画、石部經濟各局長(松本編輯局長病氣缺席) 大平編輯、加藤通信、稻本經濟各局長以下各部長、參事其他關係責任者五十餘名

▲社長訓示 (十一月廿五日島山常務理事代讀)
大東亞戦争一周年記念日を前に本日茲に開戦後最初の總支社長會議を開くに當り同盟通信社として特に意義深きを覺ゆ。今次戦争に際し諸君が克く同盟の使命を認識し粉骨碎身相協力し

力(の)の限りを盡して與へられた職分を守りとほさねばならぬといふことだ。——これは誰にとつても解りきつたことであるが、一年前に過つて想ひ出すことはいふまでもなく、開戦前後の間には一寸名状し難い區切りがあつたことである。危機一髪とか、一觸即發とかいふ言葉で形容されるのが開戦直前日米兩國の緊張状態であつたが、戦争といふものは起つてみないとほんだうの感じが出不いものである。太平洋戦争「間近」と豫てから高言してゐた米海軍長官ノックスのごときは、當日最もうろたへた一人だつたといふことである。その日のワシントン政府部内の狼狽、混亂は甚しかつた。眞珠灣まで一舉に攻撃の對象にならうとは米政府當局者の全く豫見し得なかつたところだ。没常識の話をやうだが、眞珠灣攻撃の第一報を聴いて、パール・ハーバーは

て社運の發展に盡されたる努力を衷心より感謝す。同盟の盛衰は邦家と共に在り、同盟の任務が邦家の將來に如何に重大なる意義を有するかは今更めて説明の要なからん。

皇國日本がその存亡興廢を賭する此の大戦に諸君が各職場を戰場とし、全力を擧げて同盟のために働き闘つてこそ千載に悔なきことを信じて疑はず。

余は今回五十日にわたる旅行に依り南方南溟酷暑の各地において皇軍將兵とともに邦家の爲め挺身する同盟社員(の)の勞苦を親しく視察して目下歸國の途にあり、會議半ばにして諸君と帝都において相見えんとす。

幸に諸君はこの前古未曾有の重大時機における總支社長會議の重要性を克く認識し、充分その成果を擧げんことを期待して已まざらん。

マニラにて 古野社長

全に歩調が合つてゐたに拘らず、太平洋問題では必ずしも足並みが揃つてゐなかつたものが漸次提携の度が加はり、對日壓迫の姿勢を強化し來つたところに禍因があつた。

開戦前からアメリカ人の間でも日米戦争の話はよく出てゐたものである。九月説を信じてゐたアメリカ人の記者があつた。十一月に入つてから自分はこの男に彼の豫言からもう二ヶ月も過ぎたぞと、かからかつてやつた事があつたが、彼は長い歴史から見れば二ヶ月や三ヶ月は問題でないといふ説を固執して譲らなかつた。彼は米海軍に多數の知己をもつてゐると豫てからいつてゐたが、米海軍部内少くとも、その一部には早くから、そのやうな空氣があつたことを裏書きするものである。

これに關聯して開戦後出版された國務長官ハルの傳記には「ハルは融和論者なりとて、支那島嶼の一派から攻撃されて來たが日米交渉を遷延してきた功績を忘れてはならぬ。若しも日本が眞珠灣攻撃から二年前に、若くは半年前に攻撃を決したとすればどうなつたであらう。米はこの間貴重な準備の期間を得た」と述べてゐる。米は何一つ譲らなかつた」ともいつてゐるのだ。また事實その通りである。日米交渉は若し米の爲政者にもつと。

大東亞戦争一周年 大詔奉戴記念式

十二月八日午前九時より本社大編輯室において大東亞戦争一周年大詔奉戴記念式を擧行した。國民儀禮の後、古野社長は南方視察にもとづき現地における事情を説き大戦必勝の信念を吐露して同盟の重大使命遂行のため聖社一丸となつて奮起挺身し、もつて聖戰目的達成に寄與すべきことを強調された。

なほ社長は右挨拶に引續き別項のごとく本年度岩永賞を授與され佐々木北支總局長より受賞者を代表して謝辭陳述あり、終つて社長は發聲で聖壽萬歳を齊唱して閉式した。

大局 をみる見透しと政治性があつたら凍結令前にまよつてゐるべきであつた。開戦直前の交渉で假りに三ヶ月とか六ヶ月とかの暫定協定が出来たとしても、前記の米の態度を思ふにつけ將來太平洋の危機を除去するに役立つたかどうか疑はしい。來るべきものが來た宿命の歸結を切り開いて、戦ひを飽くまで勝ち抜かねばならぬ。

新聞通信調査会 JAPAN PRESS RESEARCH INSTITUTE

馬來の新聞事情

同盟に負荷された新責務

大陸部 飼手 譽 四

新聞發行の意義

今度同盟が中心になつて昭南で新聞を發行することに、大東亞戰爭開戦一周年記念日に當る十二月八日に創刊號が出されたさうだ。寔に結構なことである。何といつても昭南は南方共榮圏の中心であり、眼目である。西歐勢力東方進出の最後の據點であつた「獅子の島」昭南は、またアジア恢弘の有力な前進基地たるべき歴史的使命を持つた土地だ。この土地において文化工作の急先鋒「新聞」を主宰することが我が同盟に委任されたのは偶然以上の出来事である。私はそこに深い約束を感じるものである。

英國情報局の活動

先づ官廳側から見ると英帝國極東情報局と海峽植民地情報局の二本建となつてゐた。極東情報局の方は上海から引揚げて来て腰を下ろしたもので、主として國際情報機能を持つてゐた。戦前シンガポール第一の高樓カセイ・ビルに屯してゐたのがこれである。

戦前の新聞界

さて新聞だが、土地柄を映して英字紙、華字紙、マライ字紙、それに邦字紙等の多種に亘つてゐた。英字紙にはストレイト・タイムス、マライ・トリビュン、フリー・プレス、モーニング・トリビュン、朝刊紙、シンガポール・ヘラルドの夕刊紙等があつた。ストレイト・タイムスとフリー・プレスは同一資本の經營で全く英國人の新聞、殊にストレイト・タイムスはロンドン・タイムス張りの編輯振りで、この方面の中央紙をもつて任じてゐた。發行部数は三、四萬と思はれた。ストレイト・タイムスは所謂綺麗事の新聞である代りに、フリー・プレスの方は宣傳臭が濃かつた。重慶と支那人に對する極端な提灯持ちと日本及び日本人に對する悪口雜言で埋つてゐた。同じ新聞社から出してゐる新聞をかういふ風に使ひ分ける所が如何にもイギリス風であつた。

我が社の責任

英字紙、華字紙、マライ字紙については如何なる方針がとられるかは知らぬが、要するに強力な指導を與へることが必要であることは疑ひない。實はこの指導に當る組織は同盟そのものでなければならぬのであつて、昭南だけに舞臺を局限しても、この土地で邦字紙を發行し外字紙を指導することを責務とすることになるのである。

ABC D包圍陣の據點

戦前のシンガポールは名實共に英國の東洋據點であつた。セレター軍港を基幹とする軍事的意味はもちろんだが、産業經濟、文化の上でも最大の前進基地となつて居つた。帝國と米英との關係が悪化するに及んでシンガポールの重要性は

口を叩いてゐた。私の着任當時あつた通信社はロイター支局と同盟通信と東方通信の三社、後に極東危機説が喧しくなり、ABC D包圍陣が口の端に上るやうになつてからアメリカのAP、UPがやつて来た。情報局がロイター第一主義で依怙鼻息をするといふので絶えず不満であつたこの外アメリカ放送會社NBC、CBSがマイクを引つけてやつて来た。NBCは九月頃から毎週金曜日本國向けにスポット・ニュース即ち現地報告をやつてゐた。フォーマンといふアナウンサーが來てゐたが、十一月初め「どろもシベリアの方が先らしい」と迷判断を下し、再びマイクをぶら懸けて浦鹽へ行つてしまつた。

この間にあつて日本人の經營したる英字紙がシンガポール・ヘラルドであつた。先に述べた東方通信とタイ・アップして日本のニュース、日本の主張を頒布するの

に努力して來た。とはいふもののイギリス側の檢閲を必要とするのであるから實際問題としては社説と見出し位で異色を放つに過ぎなかつた。

マライ共黨を先先に惡辣な反日策動に餘念がなかつた。ところが

陳の本據福建に皇軍の勢力が伸張したり、國際關係が不安の度を加へたり、重慶政權の南洋華僑に對する誅求が度を加へて來るとすつかりつむじを曲げ、國民黨總裁反對、福建省首腦の苛政彈駁と反軍の特色を露骨にし、遂には蔣介石の特命使節吳鐵城(當時海外部長)と公衆の面前で握み合ひの喧嘩騒ぎを惹起した。

重慶の恩寵は直ちに陳の上を去つて胡に向ひ、胡は昨年の參政會

に招かれて重慶に至り蔣から懇な言葉を貰つて歸つて來た。それから後は南洋商報と星洲日報とは紙面の上で噴飯物の喧嘩を始めたのであつた。ところが對イギリス關係では兩紙とも奇妙な一致を認め、戰爭努力に對し原則的に贊成實行に反對の態度をとつてゐた。

マライ字紙は二つあつた。ウォルター・マラーヤとウツサン・マラーヤ

で前者は發行部數二萬數千を持ちマライ語紙としては可なり有力なものであつた。實はウォルター・マラーヤはアルカフ・ガーデン(シンガポールにあつた日本庭園)で有名なアルカフの所有で所謂アラブ系であつた。これに對しマライ人のマライ紙を目標に生れたのがウツサン・マラーヤだつた。ところがウォルター・マラーヤの方も戰爭勃發數ヶ月前にマラーヤ青年同盟の首領イブラヒムによつて買收された。

佛印方面まで相當送られてゐた以上のやうに戦前のシンガポールの新聞は多種多様な住民の靜的狀態と差し迫る世界的動亂の動的情勢とを反映し、名狀すべからざる無秩序狀態を現出してゐたのである。皇軍占領後の昭南にあつても、マライ、昭南の全域に亘る人口の複雑な混雑性は何等解消して居らず、この不透明な住民層を通じて、日本の政策、日本の文化日本の産業を浸透せしめる新責務が負荷されたわけである。

邦字新聞は當ての英字新聞にも當るわけで、原住民の間に讀者が少いだけ任務遂行に若干の困難があらう。それでも昭南、マライ、スマトラの文化工作の中心的支柱であり、南方共榮圏の中央紙たる

自負と風格を失つてはならぬのである。新「昭南新聞」は飽くまで高邁な識見と有力なる指導性を保持して行く必要があることは、上述の戦前の狀況がハッキリ指摘するところと考へる。

邦字紙の活躍

邦字紙は南洋日々と新嘉坡日報の二種類があつた。南洋日々は古い老舗であつたが、後年振はず、同紙から別れた日報に壓倒されてゐた。日報の社長長尾正平君はまたシンガポール・ヘラルドの社長を兼ねてゐた。發行部數は二千内外と思ふが、遠くタイ、ビルマ、

新開を營利の對象として考へず

現在その經營を裏付ける經濟的バックに缺けるところはあつても、計を百年の後に致す高邁なる識見と國家目的に副ふ強力な指導性こそ昭南における新聞經營の眼目でなければならぬ。この負荷によく應ふるもの、それは同盟通信社を措いて外に求め得ないであらう。

日滿一體強化と

國通の整備發展

査閱部長 藤川 佐吉

偉大なる日本

滿洲から歸つて最初に驚喜させられたことは、内地の國民生活が實に餘裕々たることであつた。このことは國外にゐる日本人の誰れしもが考へるであらうやうに、祖國日本を思ふの餘り、いはゆる思ひ過ごし、取越し苦勞をしてゐたためであらう。また、大御心を奉體した關係當局者の並々ならぬ苦心施策の賜でもあらう。

大東亞文學者大會に滿洲國代表として出席のため過般入京したハルビン在住の白系露人作家のH・バイコフ翁も初めてみる大東亞戰下の日本の姿を「偉大なる日本、幸福なる日本國民」と語つてゐる。五年半にわたる支那事變、一ヶ年の大東亞戰を戦ひながら、なほ且つ「戦ひはこれからだ」の決意いよいよ堅く、必勝不敗の信念に燃えつつ慌てず騒がず、堂々總進軍する皇國統帥一億の、その美その力は露人老作家の胸をも強く打つたのであらう。

滿洲國の協力

世界舊體制打破の嚆矢たる滿洲事變によつて世界新秩序建設の先驅者承つて建國された滿洲國が日滿一體、共同防衛の契も固く、日本を盟主とする大東亞共榮圏の建設に、世界新體制の確立に、上一致總力を擧げて挺身協力しつつある有様は、世界に燦たる偉觀であり、道義國家の眞面目を發揮した華であり、大東亞の前途を闡示する光明である。滿洲層の一部

外國ノ通信社又ハ新聞社ノ支社及記者ニ關スル件
この五法律である。これにより滿洲國通信社は滿洲國唯一の國家通信社なることを更めて法律により定められたわけであり、新聞社は新聞紙を發行することにより國政の滲透と文化の向上を圖るものなることを、記者は國家的使命を有し、報道または新聞作製に従事するもので國務總理大臣の認定せるか又は記者考試に及格せるものなることを要するなど外國人記者および通信新聞社支社は届出登録を要することなど、すべて法律によつてそれぞれの性格分野が決定されたわけである。そして國通法の第一條には

政府ハ電信電話ソノ他ノ通信方法ニ依ル情報ノ蒐集及供給ノ事業ヲ統制確立シ以テ國政ノ滲透ト國威ノ發揚トニ資セシムル爲メ滿洲國通信社ヲ設立セシム
とあり新聞法の第一條には
新聞社ハ新聞紙ヲ發行シ時事其他ノ事項ニ關スル公正ナル報道ト懇切ナル解説トヲ爲シ國政ノ滲透ト文化ノ向上トヲ圖ルヲ以テ目的トス
とある。更に國通法第十一條には
滿洲國通信社ハ國務總理大臣ノ命ニ依リ其ノ指定スル事項ヲ内容トスル情報ヲ其ノ指定スル弘報機關ニ供給シ又ハ供給セザルコトヲ要ス
とあり新聞法第二十五條にも
新聞社ハ國務總理大臣ノ命ニ依リ其ノ指定スル事項ヲ新聞紙ニ掲載シ又ハ掲載セザルコトヲ要ス
と規制されてゐる。新體制の實施により滿洲新聞界未曾有の大統合が強力に遂行された。即ち新京、奉天に本社を有する日、滿文新聞社を主體にして多くの新聞が統合された。その結果滿洲新聞社は新

滿洲弘報新體制

食糧、石炭の増産に重工業部門における對日寄與に、皇軍の一翼としての滿洲國軍の整備強化に、その他滿洲國の各部門各界を總動員して大東亞建設のための力強き協力攻陣が續けられてゐるうちに弘報界もまた武藤弘報所長が「滿洲弘報新體制」と自負する劃期的な革新が斷行された。新體制を規定するものは昨年八月廿五日附で公布され本年々初から施行された
滿洲國通信社法
新聞社法
記者法
外國人記者ニ關スル件

京および北滿各地において日文六英文一を發行、滿洲日新新聞社は奉天および南滿各地で日文五、こども新聞一を出し、康徳新聞社(盛京時報、大同報を主體に新設)は全滿各地の滿文紙十一を吸収し小報(小型滿字紙)三とも十に四新聞を發行してゐる。この他に諺文、蒙文、露文紙各一および地理的關係その他の特殊事情から前記三社に統合されなかつた大連の泰東日報ほか二の滿文紙を加へ、現在滿洲の新聞は九社三十五新聞となつてゐる。
その發行部數も滿洲の國勢伸張と、文化の向上を端的に反映して著しく増加してゐる。これら新聞の毎日の紙面の大部分は國通が供給する情報(ニュース)によつて飾られてゐるのである。日本新聞會に比すべき社團法人滿洲新聞協會は今年五月二十日成立し、理事長には松方國通理事長が選任されてゐる。常務理事には、つひこのあひだ中部日本新聞社の常務になるまで國通業務局長であつた長澤千代造氏が當つてゐた。

國通新體制完備

建國以來國策通信社として滿洲國の飛躍的發展に輝かしい功績を積んで來た滿洲國通信社は弘報新體制によつて本年四月法律にもとづく特殊法人滿洲國通信社となり逞しく再發足をした。それから間もなく社内外の絶大な期待と非常な歡迎のうちに新理事長に松方義三郎氏を迎へたのであつた。松方新理事長は就任後初の社内定例會議での訓示の中で
「滿洲國は今や世界の滿洲國である。國通社員も最早や北は黒河から南は關東州までだけを脱んでゐたのではない。廣く大東亞を脱み、眼界を世界に馳せながら、而もその足は飽くまで

滿洲ニユースの取扱

日本の滿洲國に對する終始變らぬ仗儀につき張國務總理は「建國以來渝らざる友愛哺育の大恩」と述べてゐる。今内地の人々の多數の關心は南方に向けられてゐる。それは至極自然のことである。だからといつてかりそめにも、また片時も北方を忘れてはならないことはいふまでもない。黙々として北邊鎮護に精進してゐる北方はあらゆる見地から南方が重大なればなる程重大性を増すわけだ。
國通で取材した重要ニュースを寸刻を惜んで同盟に送り込み、それが十分、二十分遅くも三十分一時間で國內同報で、或はローマ字、華文の大陸放送で打ち返しが這入ると國通編輯局に歡聲が揚り待てども待てども打ち返しのなかつた時の係員のガツカリした様子、四年半毎日のごとくみて來た筆者にとつては能ふ限り許す限り、滿洲關係記事は優遇せねばならぬとともに、逆に内地における滿洲關係記事も細大なく國通に送り込まねばならないと痛感させられる。

本社創立記念式

函館支局の

去る九月の滿洲建國十周年慶祝式典を中心に殆んど一ヶ月にわたる繰り展げられた慶祝諸行事の他の滿洲の記事が、寫眞が、我が同盟で大々的に取扱はれたばかりでなく内地各紙が連日のごとく、或は一面トップに、或は四段五段に最大級の優遇をもつて扱つたことはニュースの價値を認めてか友義の發露か、その兩方かは別として滿洲國國民をいたく慶ばせ、建國十周年に相應はしき日本報道界最大の賜物であつたと思はれる

